

2024.6.7

カミヤシキノリコ

上層敷典子

NO.1

私から始まる平和統一エッセイ

神様主義の真の愛を根本精神として、様々な事を超越し「国内外の韓民族の相合と統一の実現に賛同する私にとって、決して忘れる事のできない「原点」とも言える体験があります。

当時、新米保育士として働き始めた時、父親が北朝鮮で母親が日本人の親を持つ子供が私のクラスにいました。その親子に対する当時の差別と偏見は根深く、決して簡単な問題ではありませんでした。ある日私が出勤すると、その子供は園を辞めたと知らされました。当時の私は若くあまりにも知識が無く、私が誂える声などは無カに等しく、ただただ組織の壁に潰された、という敗北感と、差別と偏見に対する怒りでいっぱいでした。けれどもある日、その子供の母親からお手紙をいただきました。「先生がこの子の唯一の味方になって下さった事、一生忘れません。この子は私の誇り、民族の誇り、私の願い、それは平和と統一。私は決して希望を捨てた事はない、」その手紙には、自身が受けたであろう辛さや怒りのことは無く、むしろ未来への希望や夢が溢らっていました。その手紙を読んで私は、自分が間違っていた事に気づきました。彼女には、決して未来を諦めないという強さがありました。それは「母の心」なのだと私は知りました。たとえどのような壁であっても、それを越える事ができるとしたら、それは「母の心」なのだ、と、私は教えられました。

その後私は子供を持ち母となりました。今の私は「統一を願いながら苦勞を重ねてこられた先人達の歩み」を知り、「南北の統一」「韓日の友好親善」「アジア共同体形成」「世界平和と統一」への貢献と活動を

具体的に成そう！実現しよう！と活動に参同出来る事を、心から嬉しく
として誘いに思っています。これから日常では体験する事の出来ない
多くの体験を通して、学んでいきたいと思えます。たとえどんな壁であ
ったとしても、乗り越えていく事の中心には母の心情がある歩みをして
いきたいと思えます。

5

10

15

20